

一筆啓上

作左通信



第二十一号 平成十六年八月三十日(月)発行

ふるさと再発見!

「六ッ美」の名、誕生秘話

最近、自分の生まれた地域や住んでいる地域への愛着が薄れていると言われています。そこで、今回から、「ふるさと再発見!」のシリーズを企画し、ふるさとの良さについて考えていきたいと思えます。

一回目は、本多作左衛門重次のふるさと「六ッ美」。現在、「六ッ美」という名は、学校名などで使われていますが、地名としては残

っていない。しかし、六ッ美という名は、いつ、どのようにして生まれたのでしょうか。

さかのぼること、今からおよそ百年前の明治三十九(一九〇六)年、当時碧海郡(へっかい)にあった占部村(うらぶく)・糟海村(かすみ)・中井村・中島村・合飲木村・青野村の六か村が合併して六ッ美村が誕生しました。この時に、初めて六ッ美という名が出てきます。六ッ

美という名になった理由については、確かな記録は残っていませんが、「これから六つの村が協力してすばらしい村にしていこう」という意味があるといえます。特に「美」という漢字には、「すてき」とか「すばらしい」という当時の村長さんたちの思いや願いが込められているように感じます。

六ッ美村は、昭和三十三年(一九五八)年に、「六ッ美町」となり、役場は、下青野に置かれました。すなわち、碧海郡六ッ美村から碧海郡六ッ美町になったわけです。そして、昭和三十三年(一九六二)年には、岡崎市の一部となり、この時、六ッ美という地名は、消えてしまったのです。

「六ッ美」という名が誕生してまもなく一世紀。地名としてはありませんが、学校や会社などに使われ、「作左の里」では、今も生き続けています。字名や町名には、その地域の特色が表れています。これからも、「六ッ美」という名を大切に、後世にまで伝えていきたいものです。



—旧六ッ美村役場— (「六ッ美村誌」より)